

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672900133		
法人名	社会福祉法人九十九会		
事業所名	グループホーム秋光園		
所在地	鹿児島県日置市東市来町長里360-1		
自己評価作成日	平成22年7月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人ひとりの意思を尊重しホーム内の畑で野菜作りをしたり、食材の買い物に同行してもらったり、または園内外の散歩を楽しまれたり一人ひとり、それぞれのペースで毎日を過ごされており、毎日笑顔の絶えない明るく楽しいグループホームだと思います。また入所者の方々の笑顔により、職員も癒され士気を高めることができていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

丘の上の広い敷地に特別養護老人ホームを中心とした高齢者福祉に関する事業所が併設され、その一角にあるホームである隣設したグラウンドは保育園の運動会が行われたり地域の方がグランドゴルフの練習をする等交流の場となっている。又、法人で行われる秋祭りや餅つき大会、避難訓練等地域の方の参加や協力があり連携や交流を深めている。職員は利用者本意のケアに心がけ「笑顔溢れるホーム」づくりの為職員同士何でも気軽に話せアットホームな雰囲気の中日々のケアでの気付きを全職員が把握出来るよう連携を取り合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム秋光園の理念には職員の思いが込められており、地域との関わりを大切にしながら、また入所者全員が笑顔で暮らせるように・・・と職員は日々取り組んでいます。	平成21年4月に全職員で話し合い「地域との関わりを持ちながら笑顔溢れるホーム作りを行います」という新しい理念を作られた。チームワーク作り、思いやりの心配りで地域の方との交流、ホーム内での交流を通じて笑顔を常に意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われている文化祭には、入所者全員で制作したちぎり絵を出展しています。また地域の小学校等の催し物には、できるだけ参加したり、図書館も利用したり地域の方々のつながりを大切にしています。	ホーム前のグラウンドでは保育園の運動会が行われ、グラウンドゴルフは毎朝のように地域の方が訪れ挨拶を交わしている。地域の文化祭には入居者が作成したちぎり絵を出展し観覧にも出掛けている。法人で開催される秋祭りや餅つき会では地域の方や子供達との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園外散歩や同地域の商店やスーパー等に買い物に入所者も同行し、地域の方々とふれあう機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、開催しており入所者や家族、地域の民生委員・自治会長・市介護保険課職員の方々や同地域のグループホームの職員にも参加して頂き現状報告や、そこでの意見交換を参考にし運営しています。	行政・地域住民・家族・入居者も参加した会議を2ヶ月毎に開催し現状報告や情報交換の場となっている。支払方法や非常口の階段をスロープにする等話し合いで改善されている。地域との関わりについては相互の行事への参加を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村の担当者とも交流があり、いつでも相談や助言がもらえる関係性を築いています。	認定更新・事故報告等機会ある毎に市の担当者の所へ出向き連携を深めている。研修会やインフルエンザ対策、相談事等の必要な情報をもらっている。キャラバンメイトを活かした取り組みを考慮中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し現状報告を行い職員全員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	毎月A・B棟の職員会議で身体拘束について問題となっていないか話し合い、年3回法人の委員会も開催される。日中は鍵を掛けずセンサーを利用しているがセンサーの無いところから出てしまったとの事で机が置かれている。身体拘束をしないためのケアについてマニュアル記載があるが具体的な行為の記載がない。	国が示している「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」についてマニュアルの中に記載し全職員の理解と日々のケアについて振り返りをする事でスキルUPをしていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を行い、グループホーム内での虐待が発生しないように日頃から職員一人ひとりが注意しながらケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加したり、また職場内での研修を行い職員全員が学んでいますが、まだそれを活用はできておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は管理者を含め職員二名で対応し、十分な説明を行い本人やご家族の同意を得た上で契約の締結や解約等を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入所者やご家族にも参加して頂き要望や意見等を聞き、また面会に来られた際にも、ご家族にできるだけ尋ねるようにしています。	クリスマス会時に家族も参加してもらい意見・要望を聴く機会としている。面会時に出た意見は連絡ノートや要望ノートに記載し申し送りを行っている。全職員が把握出来るようにしているが伝わっていない時はその都度対策を話し合っている。家族アンケートについても今後行っていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低でも毎月一回は、グループホーム会議を開催しており運営に関する意見や提案・要望等を聞き、それが反映できていると思います。	月1回職員会議を行い、業務上の問題について改善策を話し合っている。職員の年齢層で温度差があるが何でも気軽に言い合える良い雰囲気があり個々の良さを発揮できる職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がお互い協力して働くことができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加し、その後は職場内の会議で研修復命報告を行い職員全員で知識が共有できるようにしています。また介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の為の勉強会も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会に加入しています。定期的に関行われる研修会では、他のグループホームと情報交換を行いながらサービスの向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者が早くホームに慣れて頂けるように、その方が安心できる声かけや不安が取り除ける対応を考えながら、一日でも早く信頼関係が築けるように努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、ご家族との十分な面談を行い、要望にも、できる限り添えるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者本人の意思を尊重しながら、ご家族の要望等も受け入れて、その時々合った対応を見極めながら臨機応変に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む上で職員が入所者の方々から教わったり学んだりすることも多いようです。現在、自立度の高い入所者が多く、できる限り何でも職員と一緒に家事を行っておられます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは綿密に連絡を取り合い、お互いに何でも相談できるような関係が築けるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族からこれまでの情報を収集し、できる限り馴染みの人や場所と疎遠にならないように気をつけています。	いきつけの理・美容院を利用される方や、自宅近くの店で買い物に行き近所の方と言葉を交わしたりしている。帰宅願望の強い方へは要望時につれて帰っている。法人のデイサービスに来られた方がホームへ遊びに来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の相性を配慮しながら、入所者間のトラブルが起きないように、また入所者全員が楽しく生活できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後の様子を確認し連絡をとりながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者本人の意思確認を必ず行い、日々のケアを行っている。今後も慎重に取り組んでいきます。	1つ1つの行為を行う前に必ず利用者の思いを確認している。意思疎通の取れない方は表情を伺いながらケアを行うようにしている。日々の気付きは必ず気付きノートに記入し申し送りや職員会議で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やケース記録には職員全員が読んで確認するようにしており、様々な情報や経過記録の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入所者の心身状態を確認し把握しながら一人ひとりに適したケアを提供しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議やモニタリングを必ず行い本人やご家族の意向が反映された介護計画を作成しています。	毎月の職員会議で気付いた事を話し合い、3ヵ月毎にモニタリングを行い6ヵ月毎に計画の見直しを計画担当者が実施している。計画作成時には必ず家族・本人の要望を聴き主治医意見書を考慮している。必ず職員会議でサービス内容を読み上げ、ケアの統一が図られるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の様子や体調を個別に記録する介護日誌を毎日付けており、職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてその時々合った支援が行えるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にもできるだけ参加し、また町内にあるスーパーや鮮魚店、精肉店にも入所者と一緒に買い物に出かけております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と入所者本人の希望を聞いた上で、かかりつけ医を決めています。また受診の前後にはご家族に連絡して状態報告を行いながら、適切に支援しています。	入所前からのかかりつけ医となっており、定期受診時は職員対応をしている。受診結果は家族へ電話報告している。専門医受診については家族に対応してもらい結果を家族より伺っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護職員は在籍しておりませんが、同敷地内にある特養の看護職員に必要に応じて処置や助言を受けるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者の方が入院中は、DrやSW、またご家族とも綿密に連絡を取り情報交換を行いながら早期退院に向けての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重要事項説明書に重度化や終末期における対応についての指針が記載されており、それについての説明をご家族と入所者本人に行い承諾を受け支援しております。	「重度化や終末期における対応についての指針」に基づき説明を行っている。家族・本人の意見・要望を伺い、話し合いを繰り返した上で出来る限りの支援をし関連施設や医療機関へ搬送している。ターミナルケアについて職員の意識向上のため勉強会を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命士による救命講習を受講しており処置等は学んではおりますが、実際そのような状況になり実践となると不安がる職員も多いのが事実です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しておりますが、夜間帯の災害となると不安があり、地域の方々との協力体制をもっと深めていく必要があると思います。	年2回の消防署の指導の下で避難訓練を行い、他に年2回自主訓練も行っている。地域の方も6～8人参加しての訓練が出来ている。	日頃の地域の方との付き合いで建物の構造を見てもらい訓練時の役割を決める等具体的な計画を立てて実施できることを望みます。風水害・地震等についての対策も検討していただきたい。

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず入所者一人ひとりの意思確認を行い同意を得た上でのケアを提供しております。また言葉かけには特に配慮しながら、対応しております。	個人情報取り扱いについて法人内研修で年1回必ず行われている。認知度についての勉強会を行い職員同士で気付いた事はその都度問題提起して話し合っている。毎月の職員会議でも羞恥心への配慮や尊厳を持ってケアすることを繰り返し話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の方の顔の表情にも注意をはらい一人ひとりの能力に応じて自己決定できるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の意向を尊重しながら、その方に合ったペースを大切にしながら、できる限り希望にそって支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者一人ひとりの能力に応じて支援しておりますが、基本的には洋服等は入所者本人と一緒に選ぶことが多く、必要に応じて助言や介助を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の能力に応じて職員と一緒に料理や片付けを行っていますが、必ず意思確認を行い無理強いをせず、何事も楽しくできるように配慮しながら支援しております。	ホームの畑の手入れや収穫を職員と一緒にを行い、包丁で皮むきや刻んだりと喜びを感じられるように心掛けている。燕下の状態に合わせて刻み食やとろみ食にしたり残存機能が維持・改善できるように支援している。年2～3回の外食や手作り弁当を持っての外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、入所者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し栄養状態を把握し、また脱水にならないように十分気をつけておりペットボトルにお茶や水を入れ居室でも水分補給ができるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行い必要に応じて介助したり、歯科受診も行き清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿・排便のパターンの把握に努め能力に応じてトイレ誘導や介助を行っています。	個々の排泄パターンをチェック表に記入しさりげない声かけ誘導の支援をしている。声かけ誘導で夜間リハビリパンツの方が布パンツに換える事が出来た例もある。居室のトイレの近くにベットの移動する等自立に向けての工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し必要に応じて下剤を与薬し長期の便秘がないように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者全員が週に3回入浴されており、一人ひとりの能力に応じた入浴介助を提供しておりますが入浴日や時間はおおまか決められているのが現状です。	週3回の入浴が出来るように支援している。体調不良で入浴が出来ない方や拒否される方へは清拭や更衣を行う等気分転換が出来るような配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか寝付けない入所者の方に対しては職員が食堂と一緒に過ごしたり安心して眠れるような言葉かけを行い支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等の種類や量が変わった時は、特に注意しながら状態観察を行い、また記録にも残し情報の共有に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者一人ひとりの能力や希望に応じて、買い物や散歩、畑作り、料理や後片付け等を支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に2回、外出希望の入所者を同行し食材の買い物に出かけてもらっています。また月1回の園外活動もあります。その他御家族にも協力して頂きながら外出支援を行っています。	天気の良い日は希望を聞いて車椅子の方も散歩を行っている。敷地内の畑の草取りや手入れが日課となっている方も居る。買い物希望される方は週2回職員と一緒に出掛けている。月1回の園外活動も家族の協力をもらいながら実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて入所者自身で金銭管理を行ってもらい、私物の買い物に行かれた際は入所者本人の財布から支払ってもらうよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者が孤独感を持たないように手紙や電話等ご家族にも協力してもらいながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下等に園外活動や色々な行事等で撮った写真を飾っています。入所者の皆様もそれらを見ながら楽しそうに談話されております。その他、季節感が味わえるように花を飾ったり入所者が居心地良く過ごせる空間作りに努めております。	廊下が広くゆったりとしている。ホールや廊下にはソファやベンチがあり、机も円形や四角形であったりと利用者が思い思いの場所で過ごせる工夫をしている。入居者が作成したちぎり絵や写真等が飾られ、季節の花を生けたりプランターに植えたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にソファや椅子を置いてあり、入所者の方々は思い思いの場所に座られ仲の良い入所者同士で、楽しそうに談話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使用されていた家具等を持ってきて頂き入所者本人が居心地良く、また安全に生活できるように支援しております。特にベットの位置には十分に配慮し設置しております。	前回外部評価で指摘された排泄チェック表は個人記録の中に記入され改善されている。居室にはテレビ・写真・衣装ケース・椅子・位牌等各々の使い慣れたものが持込まれている。トイレ・洗面所が各個室にありペットや家具の配置も考慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の能力に応じて居室やトイレ電気のスイッチ等に案内書きをしたり、また手すりの増設も行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム秋光園の理念には職員の思いが込められており、地域との関わりを大切にしながら、また入居者全員が笑顔で暮らせるように・・・と職員は日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化協会に加入し、毎年行われている文化祭には、入居者全員で制作したちぎり絵を出展しています。また地域の小学校等の催し物には、できるだけ参加したりして地域とのつながりを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園外散歩や同地域の商店やスーパー等に買い物に入居者も同行し、地域の方々とふれあう機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催しており、入居者や家族、地域の民生委員、自治会長、市介護保険課職員の方々や同地域のグループホーム職員にも参加して頂き現状報告や、そこでの意見交換を参考にし運営しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村の担当者とも交流があり、いつでも相談や助言をもらえる関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し現状報告を行い、職員全員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を行い、グループホーム内での虐待が発生しないように日頃から職員一人ひとりが注意しながらケアを行っています。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加したり、また職場内での研修を行い職員全員が学んでいます。利用者の方で一人日常生活自立支援事業を活用されている方がおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者を含め職員2名で対応し、十分な説明を行い本人やご家族の同意を得た上で契約の終結や解約等を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入居者やご家族にも参加して頂き要望や意見等を聞き、また面会に来られた際にも、ご家族にできるだけ尋ねるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低でも毎月1回は、グループホーム会議を開催しており運営に関する意見や提案・要望等を聞き、それが反映できていると思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がお互い協力して働くことができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加し、その後は職場内の会議で研修復命報告を行い職員全員で知識が共有できるようにしています。また介護福祉士や介護支援専門員の勉強会も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会に加入しています。定期的で開催される研修会では、他のグループホームと情報交換を行いながらサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が早くホームに慣れて頂けるように、その方が安心できる声かけや不安が取り除ける対応を考えながら、1日でも早く信頼関係を築けるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、ご家族との十分な面談を行い、要望にも、できる限り添えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人の意思を尊重しながら、ご家族の要望等も受け入れて、その時々に応じた対応を見極めながら臨機応変に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む上で職員が入居者の方々から教わったり学んだりすることも多いようです。できるだけ利用者の方と話をするように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは綿密に連絡を取り合い、お互いに何でも相談できるような関係が築けるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族からこれまでの情報を収集し、できる限り馴染みの人や場所に疎遠にならないように気をつけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を配慮しながら、入所者間のトラブルが起きないように、また入所者全員が楽しく生活できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後の様子を確認し連絡をとりながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者本人の意思確認を必ず行い、日々のケアを行っている。今後も慎重に取り組んでいきます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やケース記録には職員全員が読んで確認するようにしており、様々な情報や経過記録の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入居者の心身状態を確認し把握しながら一人ひとりに適したケアを提供しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議やモニタリングを必ず行い本人やご家族の意向が反映された介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の様子や体調を個別に記録する介護日誌を毎日付けており、職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてそと時々合った支援が行えるように努めております。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にもできるだけ参加し、また町内にあるスーパーや鮮魚店、精肉店にも入居者と一諸に買い物に出かけております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と入居者本人の希望を聞いた上で、かかりつけ医を決めています。また受診の前にはご家族に連絡して状態報告を行いながら、適切に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護職員は在籍しておりませんが、同敷地内にある特養の看護職員に必要に応じて処置や助言を受けるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中は、DrやSW、またご家族とも綿密に連絡を取り、情報交換を行いながら早期退院に向けての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重要事項説明書に重度化や終末期における対応についての指針が記載されており、それについての説明をご家族と入所者本人に行い承諾を受け支援しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命士による救急講習を受講しており処置等は学んでおりますが、実際そのような状況になり実践となると不安がる職員も多いのが事実です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しておりますが、夜間帯の災害となると不安があり、地域の方々との協力体制をもっと深めていく必要があると思います。		

目次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず入所者一人ひとりの意思確認を行い同意を得た上でのケアの提供をしています。また言葉かけには特に配慮しながら、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の方の表情にも注意を払い一人ひとりの能力に応じて自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の意向を尊重しながら、その方に合ったペースを大切にしながら、できる限り希望にそって支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者一人ひとりの能力に応じて支援しています。外出の際に、化粧をされたり、好きに洋服を自分で選ぶ方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の能力に応じ、食事の準備の手伝いをしてもらっています。また、食事はできるだけ、自分で食べていただき、エプロンを使わないで対応しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、入所者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し栄養状態を把握し、また脱水にならないように十分に気をつけておりペットボトルにお茶や水を入れ居室でも水分補給ができるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行い必要に応じて介助したり、歯科受診も行い清潔保持に努めております。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿・排便のパターンの把握に努め能力に応じてトイレ誘導や介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し必要に応じて下剤を与え長期に便秘がないように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者全員が週に3回入浴されており、一人ひとりの能力に応じた入浴介助を提供しておりますが入浴日や時間はおおまか決められているのが現状です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はよく休んでいたできるように日中はできるだけ離床に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等の種類や量に変更になった時は、特に注意しながら状態観察を行い、また記録にも残し情報の共有に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者一人ひとりの能力や希望に応じて、買い物や散歩、レクなどの提供をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、外出できるように努めております。また、園外活動も行いながら地域に出かけることができるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて入所者自身で金銭管理を行ってもらい、私物の買い物に行かれた際は入所者本人の財布から支払ってもらうように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者が孤独感を持たないように手紙や電話等ご家族にも協力してもらいながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者の方々が気持ちよく生活していただけるように、温度や湿度にも気を配りながら対応しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に長椅子を置いてあり、入所者の方が気持ちよく過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、入所者の方の好きなものなどをもってきていただくように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方が居室がわかる様に入り口に大きく名前を書いたり、声かけしたりしながら対応しています。		